

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 27, No. 3 神奈川県立生命の星・地球博物館 Sept. 2021



野生化したピロウ

Livistona chinensis (Jacq.) R.Br. ex Mart.

神奈川県真鶴町

2021年3月25日 大西 亘 撮影

おおにし わたる
大西 亘 (学芸員)

真鶴半島先端の樹林中で、10年ほど前からシュロに似たヤシ科植物が生育していることが確認されていました。しかし、いずれも若い株で識別に必要な特徴が未発達であり、その正体は判明していませんでした。昨年、筆者らはDNA バーコーディング法^{※1}により、謎のヤシ科植物の正体が、主に九州以南に生育するピロウであることを突き止めました^{※2}。本州でのピロウの野生化が報告されたのは初めてのことです。

ただし、このピロウがどこから来たのかはまだ分かりません。真鶴半島とその周辺地域も含め、神奈川県南部の海沿いの

地域では、ピロウは庭や公園などに植えられていることもあります。自然分布する地域からやってきた可能性もゼロではありませんが、そうした地域とはずいぶん離れていることから、近隣に植えられたもののできた種子が運ばれて芽を出した説が有力ではないかと考えています。

※1 生物種間の違いが反映されるDNA配列を参照することで、調べたい生物試料の種を判別する調査手法。

※2 大井和之・大西 亘 (2021) DNA バーコーディングで明らかにされた真鶴半島におけるピロウ *Livistona chinensis* (Jacq.) R.Br. ex Mart. (ヤシ科) の野生化. 神奈川自然誌資料, (42): 129-134.
https://doi.org/10.32225/nkpmnh.2021.42_129